

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-292765

(43) 公開日 平成4年(1992)10月16日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
F 2 5 D 11/00	1 0 1 G	8511-3L		
A 4 7 B 1/04	Z	2113-3K		
F 2 5 D 23/06	S	7380-3L		

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-57344

(22) 出願日 平成3年(1991)3月20日

(71) 出願人 000004260

日本電装株式会社

愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地

(72) 発明者 上田 修

愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地 日本電

装株式会社内

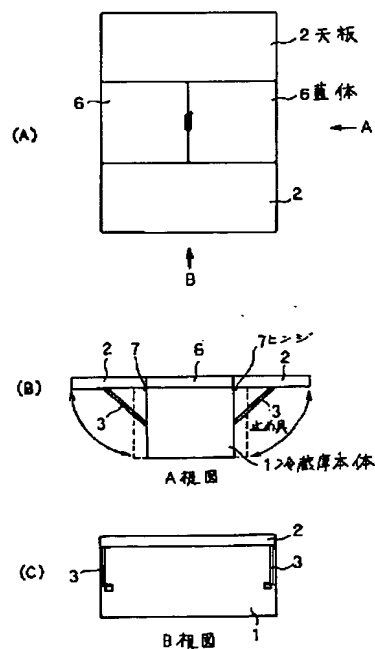
(74) 代理人 弁理士 碓氷 裕彦

(54) 【発明の名称】 テーブル付携帯用冷蔵庫

(57) 【要約】

【目的】 便利性及び収容性の良い折り畳みのできるテーブル付の携帯用冷蔵庫を得る。

【構成】 携帯用の冷蔵庫本体1の両側上部に、ヒンジ7によって天板2を取付ける。この天板2は、冷蔵庫本体1の上方開口部を塞ぐ蓋体6と略面一の位置まで回動できるようにする。使用時は、天板2を蓋体6と略面一となる水平の位置まで回動し、止め具3で仮止め固定して広いテーブル面を形成させる。未使用時は、止め具3を外して天板2を冷蔵庫本体1の両側に折り畳む。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 冷蔵庫本体と、この冷蔵庫本体の側部にヒンジによって回動自在に取付けられた天板と、この天板が所定の位置に回動した場合に該天板を固定する止め具とを備えたことを特徴とするテーブル付携帯用冷蔵庫。

【請求項2】 前記冷蔵庫本体の下部にヒンジによって回動自在に取付けられた脚体と、この脚体が所定の位置に回動した場合に該脚体を固定する止め具とを備えたことを特徴とする請求項1記載のテーブル付携帯用冷蔵庫。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、野外等で用いて好適な折り畳みのできるテーブル付携帯用冷蔵庫に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、野外で飲食等を行うために、携帯用の冷蔵庫が用いられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 併しながら、野外で飲食等を行う場合、携帯用冷蔵庫とは別に飲食用のテーブルを持参する必要がある、而もこれ等の器材を自動車等を利用して目的地まで運ぶ場合には、テーブルが別体のため自動車等への搭載性が悪いという問題があった。

【0004】 本発明は、上記の問題に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、携帯用冷蔵庫と同時に用いられていることの多い飲食用のテーブルを携帯用冷蔵庫に折り畳みができるように取付けることにより、使用時の便利性及び未使用時の収容性を向上することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明は、上記の目的を達成するために、冷蔵庫本体と、この冷蔵庫本体の側部にヒンジによって回動自在に取付けられた天板と、この天板が所定の位置に回動した場合に該天板を固定する止め具とを備えた構成とする技術的手段を用いる。

【0006】

【作用】 上記手段によれば、冷蔵庫本体の両側にヒンジによって取付けられた天板を使用時には所要の位置、例えば冷蔵庫の上面と略面一となる水平の位置まで回動させ、止め具により仮止め固定することにより、この天板によって広いテーブル面が作り出される。なお、未使用時には止め具を外して冷蔵庫本体の両側に接するまで天板を回動させることにより、天板は折り畳まれる。

【0007】

【実施例】 以下、本発明のテーブル付携帯用冷蔵庫について、図に示す実施例に基づき説明する。図1A、図1B、図1Cは基本となる実施例を示すもので、図に示すように、携帯用の冷蔵庫本体1の両側の上部にはヒンジ7によって天板2が取付けられており、冷蔵庫本体1の

上方開口部には、この開口部を密閉する蓋体6があって、この蓋体6は、冷蔵庫本体1内に収容された飲食物等を自由に取り出せるように、後述の如く上方に開くことができるようになっている。

【0008】 なお、天板2は図1Bの矢印で示す如く、蓋体6と略面一となる水平の位置までヒンジ7によって回動することができるようになっており、その位置で止め具3により仮止め固定される。

【0009】 次に、図2A、図2B、図2Cは上記の実施例において、脚部を有する実施例を示すもので、図に示すように、冷蔵庫本体1の下部の両側にはヒンジ8によって脚体4が取付けられている。脚体4は図2Cの矢印で示す如く、冷蔵庫本体1に対して、略垂直となる位置までヒンジ8によって回動することができるようになっており、その位置で止め具5により仮止め固定される。

【0010】 図3は携帯用冷蔵庫の構成を示すもので、冷蔵庫本体1は断熱箱10で形成されており、断熱箱10の上方開口部には、この開口部を密閉する蓋体6がヒンジ9によって取付けられていて、図の矢印で示す如く、上方に開くようになっている。なお、断熱箱10内には蓄冷材11が収められており、この蓄冷材11の吸熱作用によって断熱箱10内が冷却され、断熱箱10内の収容物が保冷される。

【0011】 次に、以上説明した構成の実施例について、その作用を説明する。図1A、図1B、図1Cにおいて、使用時には、天板2を蓋体6と略面一となる水平の位置まで回動させ、止め具3によって天板2を仮止め固定することにより、図1Aに示すように、天板2と蓋体6によって広いテーブル面が作り出される。また、未使用時には、止め具3を外すことにより、図1Bの破線で示す冷蔵庫本体1の両側に接する位置に折り畳まれるので、天板2は狭いスペースにまとめられる。

【0012】 上記の折り畳みテーブル付の携帯用冷蔵庫を椅子等に着座して用いる時に、天板2と蓋体6によって作り出されるテーブル面の位置が低い場合には、図2A、図2B、図2Cにおいて、脚体4を冷蔵庫本体1に対して略垂直となる位置まで回動させ、止め具5によって脚体4を仮止め固定することにより、図2Bに示すように、天板2と蓋体6のテーブル面が所要の高さまで持ち上げられる。また、脚体4を折り畳む場合には、止め具5を外すことにより、図2Cの破線で示す冷蔵庫本体1の下面に接する位置に折り畳まれるので、脚体4は狭いスペースにまとめられる。

【0013】 次に、本発明は以上述べた実施例に限定するものではなく、例えば図4に示すように、冷蔵庫本体1の側方には開口部を設け、この開口部を密閉する蓋体6をヒンジ9によって取付けて、図の矢印で示す如く、破線の位置まで蓋体6を回動させることにより、蓋体6を開いて冷蔵庫本体1内に収容された飲食物等を側方か

3

ら取り出すようにしても良い。

【0014】また、図5に示すように、冷蔵庫本体1を支える脚体4にキャスター12を取付けて、全体を移動できるようにしても良い。なお、冷蔵庫として携帯に便利な蓄冷材式の冷蔵庫で例示したが、携帯が可能であれば、通常の冷凍サイクル式の冷蔵庫でも使用できる。

【0015】

【発明の効果】本発明は、以上説明したように、携帯用冷蔵庫に折り畳むことのできる天板が取付けられていて、使用時には水平となる位置まで持ち上げられて固定され、広いテーブル面を作り出すので、飲食等に用いるテーブルを持参する必要がなくなり、また、未使用時には天板は折り畳まれ、狭いスペースにまとめられるので、自動車等への搭載性が向上する。

【図面の簡単な説明】

10

【図1】(A)は本発明の基本の実施例を示す平面図、(B)は(A)の側面図、(C)は(A)の正面図である。

【図2】(A)は図1で脚部を有する実施例を示す平面図、(B)は(A)の側面図、(C)は(A)の正面図である。

【図3】冷蔵庫の構成を示す断面図である。

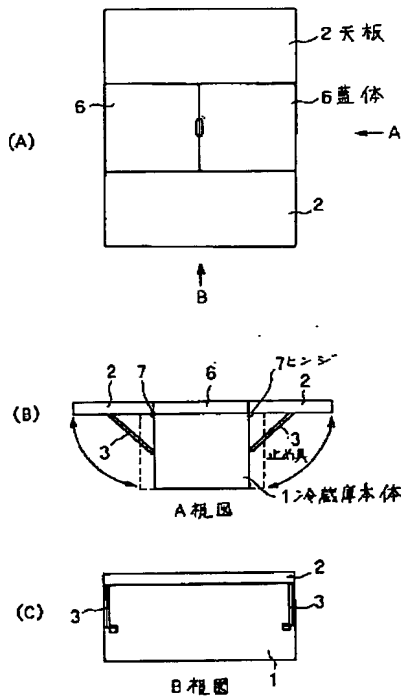
【図4】本発明の他の実施例を示す断面図である。

【図5】本発明の更に他の実施例を示す側面図である。

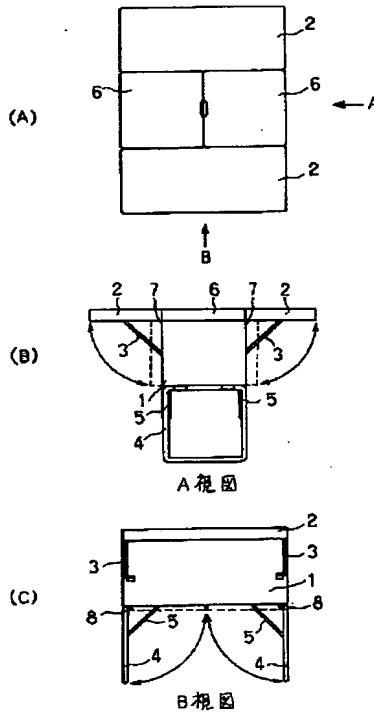
【符号の説明】

- 1 冷蔵庫本体
- 2 天板
- 3 止め具
- 6 蓋体
- 7 ヒンジ

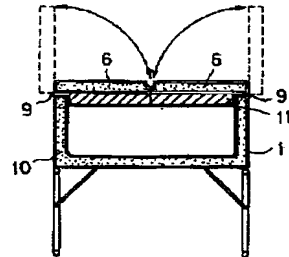
【図1】



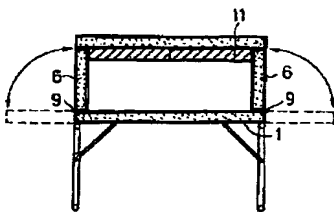
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

